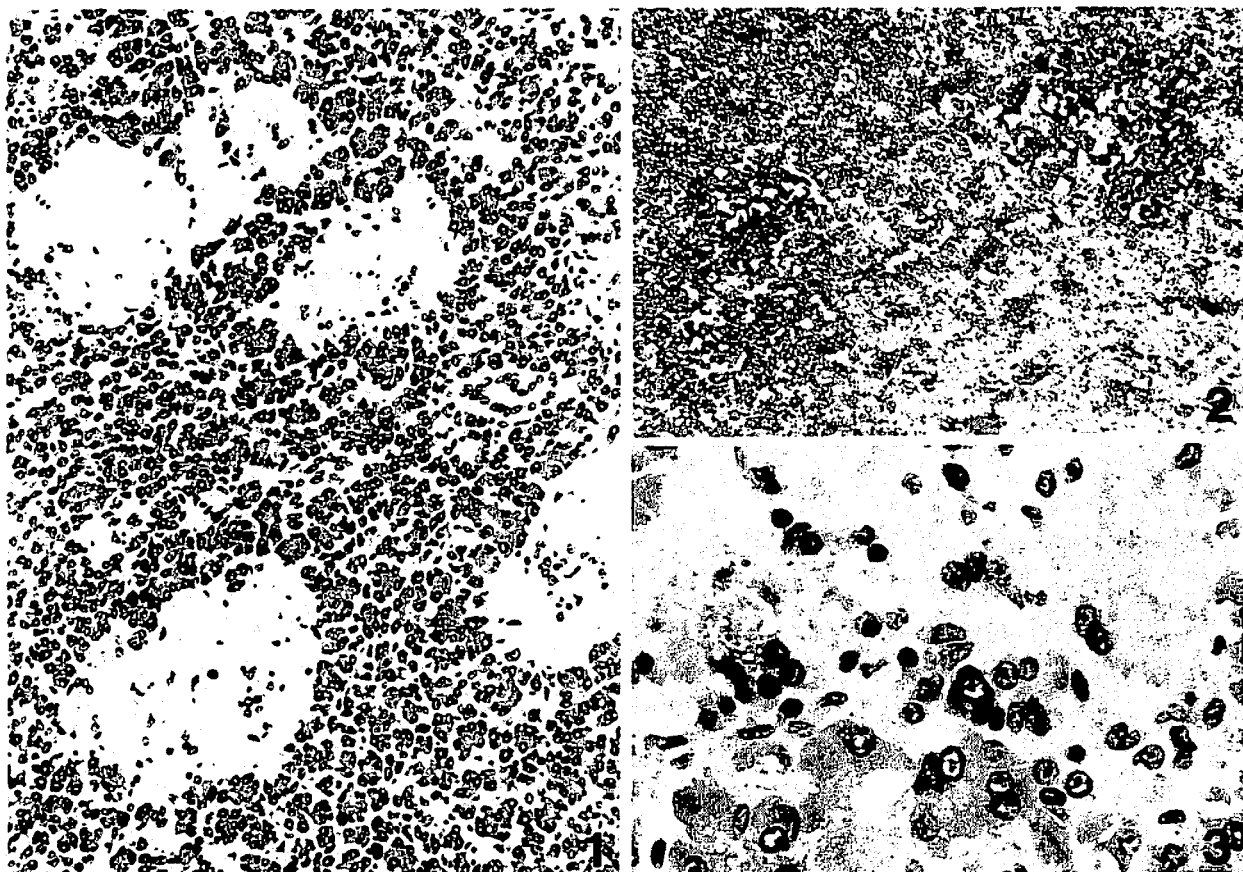


サルの膵

鹿児島大学農学部家畜病理学教室出題 第28回獣医病理学研修会標本No.490



動物：カニクイザル，雌，13歳，体重2.28kg。

臨床：鹿児島市内の一幼稚園で飼われていたが，5ヶ月前から急に痩せ，最近是多渴多尿を呈し，呼気に尿臭を感じるようになった。10日前から食欲不振，2日前には食欲廃絶，無尿に近い状態に陥り，鹿大家畜病院に入院した。皮温低下，速脈（毎分108），脱水を認め，治療の効なく，翌日斃死。生前の血液・尿検査で，RBC $105 \times 10^4 / \mu\text{l}$ ，WBC $33,500 / \mu\text{l}$ ，PCV40%，GOT81.8KU，GPT59.4KU，ALP0.78KAU，glucose 289.2mg/dl，BUN 88.2mg/dl，p-TP7.4g/dl，Na140.8mEq/l，K3.65mEq/l，尿比重 >1.045 ，尿蛋白100mg/dl，尿糖300-1,000mg/dl，ケトン体陰性であった。

剖検所見：瘦削顕著。可視粘膜著変なく，齧歯2本と口内炎を認め，肝やや腫脹し，小葉像明瞭。膵に肉眼的変化なく，胃・空腸粘膜に点状出血散発。回腸には20cm長の出血部を認めた。心嚢水やや増量。右心室に凝血多量。大動脈内膜に黄色隆起線条を認めた。大腿骨骨髓・心冠

脂肪ともに膠様。肺に炭粉沈着著明。子宮頸管部にポリープ(豌豆大)1ヶあり。他の臓器に著変を認めなかった。

組織学的所見：大小の硝子化した膵島が多数認められ(写真1)， α 細胞は残存するが， β 細胞の存在は不明瞭であった。抗豚インスリンモルモット抗体を一次血清とするAB法により，少数の単離した β 細胞が検出された(写真2)。膵島を埋める硝子様物質は，アザン染色で青染し，PAS弱陽性，チオフラビンT染色蛍光観察で輝黄緑色を呈し，コンゴ赤弱陽性，同染色偏光観察では緑色複屈折性を示す顆粒状物質の散在が認められ(写真3)，この特徴は過マンガン酸カリ前処置をしても変らなかった。

電顕観察により，光顕における硝子化部には細線維が多数走行することが明かになった。以上の所見から，猿の膵島にしばしばみられる，原発性のアミロイド沈着症と診断された。

病理組織学的診断：猿の膵島アミロイド症。